# 公正な研究活動を育む研究倫理教育の試み：倫理の空白Ⅲを用いたディスカッションから

東島仁 千葉大学大学院国際学術研究院

研究公正・倫理に関連する立場と研究費

立場：日本学術振興会 研究公正アドバイザー
日本医療研究開発機構 AMED研究倫理社会共創推進プログラム プログラムオフィサー

研究費：科研費 23K25676、26K00121、26K22113

# 本日の狙い

本日の主対象： 大学・研究機関・研究室等で
研究倫理教育・研修に関わる方（含むPI）

1. 責任ある研究を促進する研究環境を育むうえで
自らが果たしうる役割を整理できる

2. 自分の大学/研究室/研究チームにおいて、
責任ある研究実践を阻害しうる要因を踏まえ、
改善に向けた実行可能な対応策を考えることができる

# 本形式の話し合いの狙い

ご体験頂くディスカッション型研修が効果的と考えられる対象：
　研究倫理・公正について、それほど馴染みがない方々

主な狙い

0. 研究公正の視点から、現状を分析する力を育む
1. 研究公正の視点から、望ましい行動を検討する力を育む
2. 受け止め方や視点の多様性を実体験し、認識を深める
3. 活用できていない学内資源や環境に気づく、知る
4. 自分が「しておいた方がよいこと」「できること」に気づく、知る
5. 困りごとを共有・相談できる人間関係の形成
6. 相談・共有スキルを育み、心的障壁を下げる

# 前提とする知識　※事前に講義か文献読みを課す

## 必須：

・なぜ公正な研究が求められるのか？（手引き　4ページ等）

・研究環境・文化の重要さ（次スライド）と、
組織/個人に求められること、できること

## 状況に応じて：

・疑わしい研究行為（手引き　5~7ページ）

研究環境・文化

私たち一人一人が、組織や環境を構成している

## Research culture

### 組織に根付いた価値観・規範

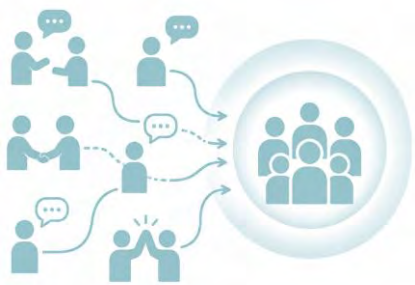
1. 何が望ましい研究か
2. どの行動が称賛されるか
3. どのような実践が標準か
4. 組織内で共有される価値観・規範

## Research climate

### 研究環境に関する研究者の認識

1. 相談しやすいか
2. 質問しやすいか
3. 成果/業績へのプレッシャー
4. 公平に扱われているか

- ✓ 研究実践に影響
- ✓ 組織的要因の影響を受ける
- ✓ 組織的な取組で改善を図ることができる



**質の良い研究、信頼できる知識、公正な研究**

Martinson, B. C., Thrush, C. R., & Crain, A. L. (2013) Science and Engineering Ethics, 19(3), 813–834., Haven, T. L., Tijdink, J. K., Martinson, B. C., & Bouter, L. M. (2019) PLOS ONE, 14(1), e0210599., Nuffield Council on Bioethics. (2014). The Culture of Scientific Research in the UK., Wellcome. (2020). What Researchers Think About the Culture They Work In., Science Europe. (2025). A Vision & Framework for Research Cultures. をもとに、Chat GPTの助けを借りて作成

# 研究公正の実現を、所属組織（研究者コミュニティ、大学・研究機関、研究助成機関等）が目指していることが共有されているとよい

## 例）科学者の行動規範 -改訂版- by 日本学術会議

### Ⅱ．公正な研究

**（研究活動）** 科学者は、自らの研究の立案・計画・申請・実施・報告などの過程において、本規範の趣旨に沿って誠実に行動する。科学者は研究成果を論文などで公表することで、各自が果たした役割に応じて功績の認知を得るとともに責任を負わなければならない。研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹底し、ねつ造、改ざん、盗用などの不正行為を為さず、また加担しない。

**（研究環境の整備及び教育啓発の徹底）** 科学者は、責任ある研究の実施と不正行為の防止を可能にする公正な環境の確立・維持も自らの重要な責務であることを自覚し、科学者コミュニティ及び自らの所属組織の研究環境の質的向上、ならびに不正行為抑止の教育啓発に継続的に取り組む。また、これを達成するために社会の理解と協力が得られるよう努める。

**（他者との関係）** 科学者は、他者の成果を適切に批判すると同時に、自らの研究に対する批判には謙虚に耳を傾け、誠実な態度で意見を交える。他者の知的成果などの業績を正当に評価し、名誉や知的財産権を尊重する。また、科学者コミュニティ、特に自らの専門領域における科学者相互の評価に積極的に参加する。

# 話し合いの進め方

## ① 全体：導入

話し合いの狙いと進め方の共有

## ② グループ内

### A 自己紹介と役割分担

記録　司会　6分

- 役割
- 自己紹介（研究公正との関係や立場、研究との関係）

### B 意見共有とディスカッション

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 問題だった行動・要素 | 15分 |
| 2 | よかった行動・要素 | 15分 |
| 3 | 研究室や学内環境について | 12分 |
| 4 | 教材のような状況に陥らないためにできることや、回避するうえで有効な仕組み、仕掛けとは？ | 20分 |

## ③ 全体：共有・まとめ

- 全体共有と質疑応答　※④を中心に　15分
- 研修の狙いと解説、質疑応答　30分

# 話し合いの留意点

## ① 大事な点

- 捉え方や感じ方、経験や知識の多様性・違いを理解し、尊重すること
- 不適切な研究が生まれづらいように、取り得る手段や行動、活用できた資源を多角的に検討すること
- 自組織内の仕組みや資源の可能性や課題を丁寧に共有、検討すること
- 事実として示されていることと、自分の解釈・評価を区別すること

## ② 目指さないこと

- 誰に責任があるか、誰が悪いかを決めること
- 全員が同じ結論に合意すること

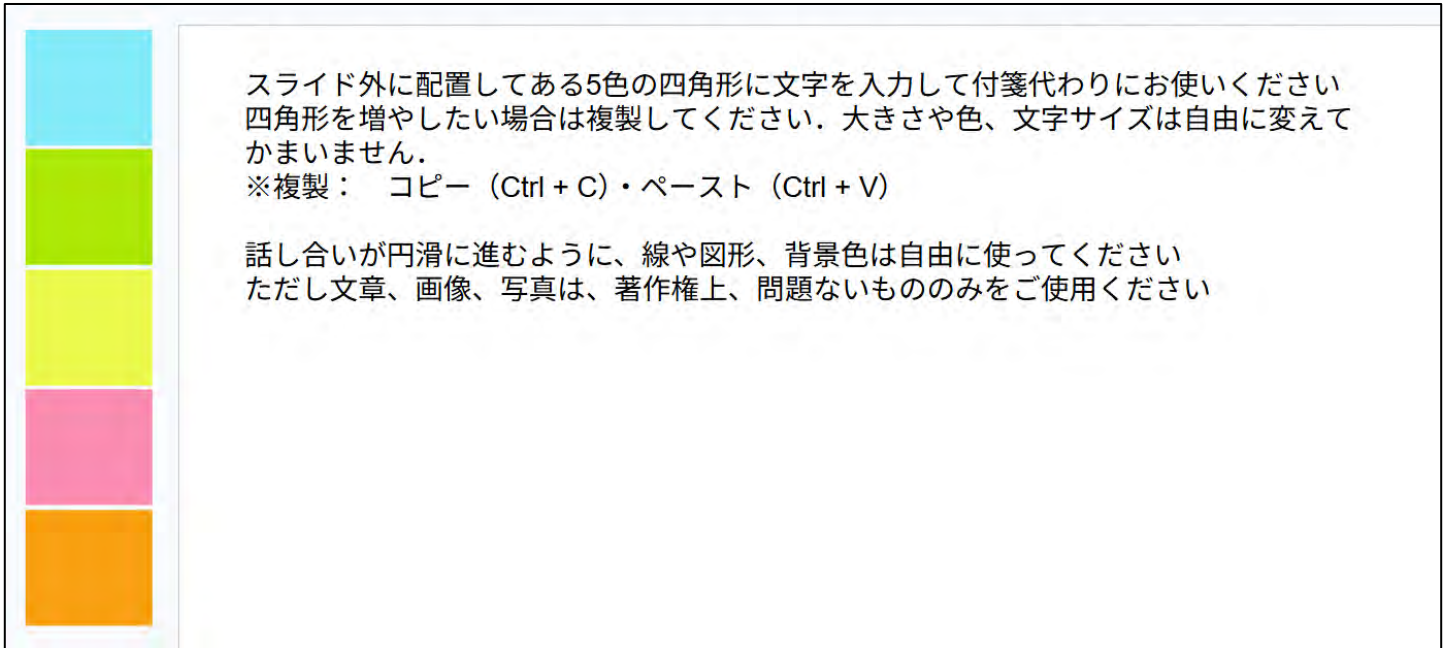
意見共有と話し合い①

# 研究公正の実現という観点から、「問題ある行動」に注目しよう

※時間調整可能性あり

・各自の事前ワークをもとに動画全体の流れを振り返りながら、いつ、誰の行動に、どのような問題が見られたか、なぜ問題だと思ったのかを班内で共有し、話し合いましょう.
班内で見方が分かれた場合は、その理由を考えてみましょう.

※ ① 各自でGoogle slide 1枚目に書き込み → ② 共有と話し合い
※ 時間に余裕がある場合、当該行動はなぜ起こったのかを考えてみましょう



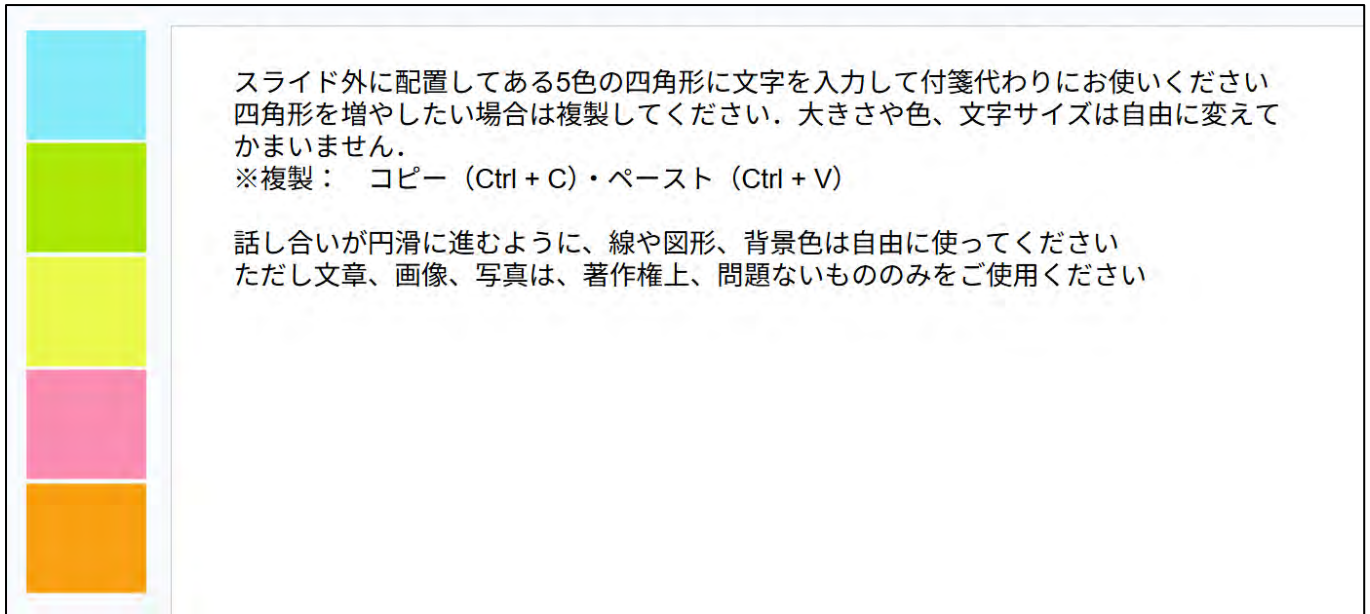
意見共有と話し合い②

# 研究公正の実現という観点から、「よい行動」に注目しよう

※時間調整可能性あり

各自の事前ワークをもとに、動画のなかで、いつ、誰の行動が、どのような理由でよかったか、どのような点で研究公正の実現に寄与したのかを、班内で共有し、話し合いましょう.
班内で見方が分かれた場合は、その理由を考えてみましょう.

※ ① 各自でGoogle slide2枚目に書き込み → ② 共有と話し合い
※ できるだけたくさん、あげてみましょう



意見共有と話し合い③

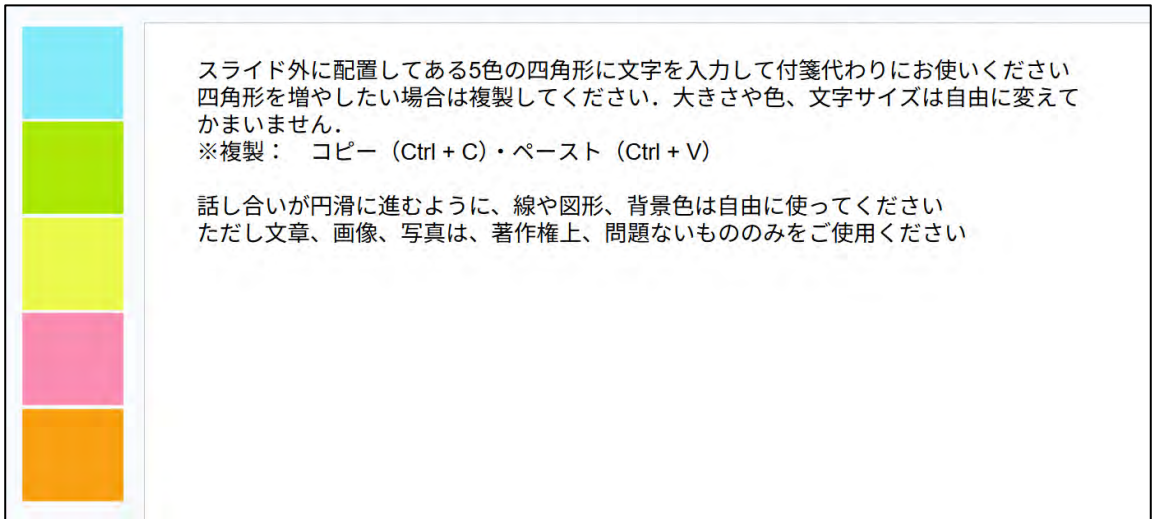
# 研究公正と、研究室や学内の環境の関係を考えよう

※時間調整可能性あり

研究公正の実現という観点から、研究室や学内の環境・状況について
気づいたことや良い点、気になる点を話し合いましょう

研究室や学内の環境・状況と、登場人物の「よい行動」「問題ある行動」の関係について気づいた点、気になった点を共有しあい、動画内の研究室や学内の環境・状況の良い点、課題点のそれぞれ（あれば）を話し合いましょう.
班内で見方が分かれた場合は、その理由を考えましょう.

※①各自でGoogle slide 3枚目に書き込み → ②共有と話し合い

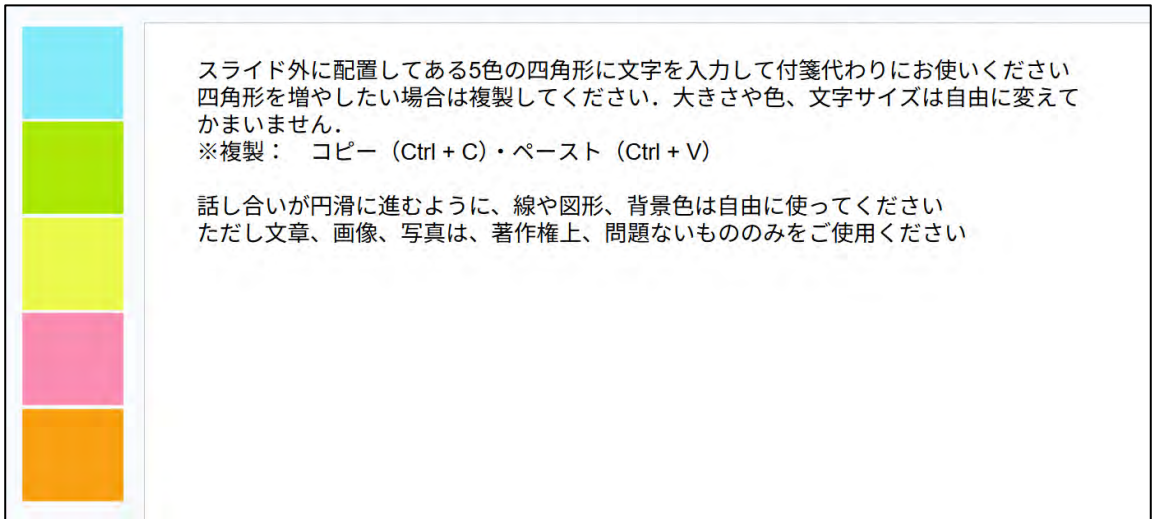


意見共有と話し合い④

# 責任ある研究活動を促進し、研究不正や疑わしい研究行為を低減するうえで有効な仕組みとは？

・動画内で見られたような望ましい行動を促す、あるいは問題のある行動を起こりにくくする仕組み・支援・資源には、どのようなものが考えられますか。あなたの組織に、参考になる事例や取り組みがあれば紹介しながら、実現可能性や課題も含めて、自由に話し合ってください。

※①各自でGoogle slide 4枚目に書き込み → ②共有と話し合い



解説

# 自らの視点や姿勢、環境や資源を吟味する機会に

・悪い人がやる
・他人事

・自分に
できることはない

・誰にでも起こる

・自分の立場で
できること &/or
すべきことがある

・自分自身のため
・社会のため

・研究環境/文化への貢献
・研究実践のかたち、研究公正規範そのもののアップデートへの貢献

解説

## 話し合い後の解説や文献読みを課すことを推奨する事項

・疑わしい研究行為（手引き　5～6ページ）

※資料購読を課す場合は、質疑応答も実施することが望ましい
※受講者に、事前学習やディスカッション後の課題として、
手引きの該当箇所や、
「科学の健全な発展のために［第2版］等の文献資料を読ませ、
質疑応答を、ディスカッション終了後に実施する形もあり
（分けて実施する場合は次回でも可）

解説：身近に位置づけることの狙い

個人の行動が、どこにどのようにつながるかを
イメージできるような解説に

## Research culture

### 組織に根付いた価値観・規範

1. 何が望ましい研究か
2. どの行動が称賛されるか
3. どのような実践が標準か
4. 組織内で共有される価値観・規範

## Research climate

### 研究環境に関する研究者の認識

1. 相談しやすいか
2. 質問しやすいか
3. 成果/業績へのプレッシャー
4. 公平に扱われているか

- ✓ 研究実践に影響
- ✓ 組織的要因の影響を受ける
- ✓ 組織的な取組で改善を図ることができる

組織の仕組み、資源について、
何を知っておくべきか、何を知らないか、
何を活用できていないかを
振り返る機会に（ラボ、研究科、大学）

実践に向けて、何をすでに学び、
何を知らないのかを振り返る機会に

**質の良い研究、信頼できる知識、公正な研究**

Martinson, B. C., Thrush, C. R., & Crain, A. L. (2013) Science and Engineering Ethics, 19(3), 813–834., Haven, T. L., Tijdink, J. K., Martinson, B. C., & Bouter, L. M. (2019) PLOS ONE, 14(1), e0210599., Nuffield Council on Bioethics. (2014). The Culture of Scientific Research in the UK., Wellcome. (2020). What Researchers Think About the Culture They Work In., Science Europe. (2025). A Vision & Framework for Research Cultures. をもとに、Chat GPTの助けを借りて作成